

長老が私の安全を祈ってくれた



失われる民族文化

昨年九月、タイ北部に住む山岳少数民族のモンを訪ねた。ここには山口県のNGO「シャンティ山口」が運営する、貧しさで学校に行けないモン族の子どものための「シャンティ学生寮」がある。寮の子どもたち、モンの村、山奥のモンの村など十六回にわたって紹介してきたが、今回をもってひとまず終わりにしたい。

実は当初、三月にも一度モンを訪ねる予定だったが、三月にフイリン・ルソン島北部の山岳民族を訪ねたため、タイ行きが不可能となったのだ。



さて、モンの最終回の今回は、失われる民族伝統文化について触れておきたい。

山のモンの村で別れの宴に一人の長老が参加した。

彼は訪れた我々一人々々の右手首に毛糸で腕輪を作りながら小さな声で祈りを捧げた。我々の旅の安全を祈ってくれたのだ。

日本でも十年ぐらい前からサッカーや野球選手がミサンガをするようになり、今は若者を中心にかなり流行している。

ミサンガはポルトガル語で、手首にいろんな編み物で腕輪を作って願をかけるものだ。

モンの人たちがいつごろからこんな行事を始めたかはわからないが、別れの際に他者の安全を祈る心温まる行為に胸が熱くなった。

以前にも紹介したがモン族以外の親しい友に、モンの名前を贈る習慣があり、モン版ミサンガとともに魅力的な伝統文化である。

しかし、大きな流れとしてはこうした民族固有の伝統文化は少しずつ失われつつある。

モン族の美しい伝統刺しゅうも、プリント化される傾向にある。

モン族は今、自分たちの文字を持たない。彼らの故郷中国で、漢民族からの迫害の歴史の中で、文字の使用が禁止されて何百年も経過する中で、自分たちの文字を失ったといわれる。

さらに今、文字だけでなく言葉も失うのではないかと思われる。

モンの村の保育園を訪れた時、園児たちは我々が来るのを知って多くが民族衣装で迎えてくれた。しかし、保育園や小、中学校も、習う言葉はタイ語だ。

親がタイ社会で働く家庭では、タイ語が家族間でも使われ、少しずつモン語を話せない子どもが増えているという。

タイ社会に同化し、



モンの民族衣装で
タイの言葉を習う子ども

豊かになればなるほどモンの文化を失う結果になっているのだ。

これはモン族に限ったことではなく、グローバル化が進む世界的な傾向だが、民族固有の文化や伝統が失われるのは寂しい。

貧しいモンの人たちほど伝統文化の中に生きていく。人間にとって本当の豊かさとは何かを考えさせられる。

今、世界的景気後退で大騒ぎしているが、民族文化喪失と環境破壊が表裏一体となっている世の流れを見直す時ではあるまいか。

（元山口放送取締役ラジオ局長）